# あの人のこんな趣味

## 基礎・境界ソサイエティで活躍している研究者の趣味を御紹介します．あの人のこんな趣味，御存知でしたか？

### 田中久陽さん（電通大）骨董

田中さんは，現在，基礎・境界ソサイエティ運営委員会の庶務幹事，また通信ソサイエティではアドホックネットワーク研究会幹事をされています．非線形問題，アドホックネットワーク等自律分散通信にまたがる分野で御活躍されています．以前から国際会議等の折には，熱心に博物館，遺跡等を見て回られていたようですが，最近では，周囲の方々を引き込んで，「骨董」に没頭されているそうです．そんな田中さんの骨董にまつわるお話をインタビューしました．

### ■田中久陽さんへのインタビュー

17世紀中ごろのオランダの焼き物の一例
（白釉輪花皿）

**Q1．骨董に興味をもたれたきっかけを教えて下さい．**

そうですねー．古いものにはもとから目がなかったのですが，いわゆる「骨董」にはまったのは親父を亡くしてからですね．よく聞く話ですが，「骨董」趣味は遺伝や隔世遺伝するらしいです．親父は「骨董」を意識して避けてましたが，祖父はかなり買っていたようです．いまでは何も残っていませんけど．まあ，親父に「骨董」は止めておけとよくいわれてましたが，そんな親父を亡くしてから，だれも引き留める人がいなくなったからでしょうか（笑）．

**Q2．特にどのような骨董に興味をもたれているのですか？**

現在の骨董は，かつてのお茶道具を中心のそれと比べて非常に広範なジャンルに育っていますね．ジャンルごとのはやり廃りもありますし．私の興味のあるジャンルは，16，17世紀ごろのオランダの焼物や食器類等の日用工芸品です．これは，皆さんよく御存知のフェルメール（注：17世紀オランダ，デルフトの画家）が絵のモチーフに用いているワインのジャグやコップなどです．オランダは低湿地なので，当時捨てられたモノがそのままの状態で掘り出されることがあるんです．いわゆる発掘ものとよばれるもので，そんなには高くないのです．あと家具ですと，やっぱり李朝（注：朝鮮，つまり100年以上前の韓国）の家具にはすごいモノがありますね…古いですが，いまのどんな家具よりもシンプルでモダンなものがありますよ．もっとも，オリジナルの状態でいいものですと，博物館や超高級骨董店に収まっていて私には無縁の世界です．人気がありますね．

**Q3．骨董の魅力について教えて下さい．**

古いものや，何かの原点や源流を見極めたいと思う人は基本的に骨董にはまる可能性，というか危険性があると思います．私のはまっている中世オランダの工芸品は，普段わたしたちが何げなく使っているコップやナイフやフォークの一つのプロトタイプなんです．骨董にもいろいろあるので，私のような若輩者が蘊蓄を語るには30年早いと思いますが…あるいは，江戸から明治初めころの寺子屋机にノートPCをおいてみると，何かしっくり来たりとか，そういう暮らしのスパイスになるような魅力もあります．また酒が好きな人は，唐津の杯やオランダの森林ガラスのコップで飲むと，安酒でも，「吟醸酒」の味がするという主観的効果，つまり錯覚ですか，もあると聞きます．また，普通の人が少々無理してゲットした仏像に十数億の値がついたりする驚きの側面もありますね．残念ながら，私には一生縁のなさそうな世界ですが（笑）．

17～18世紀オランダの焼き物の一例
（白釉徳利，杯）

16～17世紀オランダのガラス，金工品の例
（ただし，左のグラスはアムステルダムの
美術館によるレプリカ）

**Q4．骨董は教育・研究に役に立つものですか？**

結果として，役に立っていたということはあるかもしれません．例えば，何かあるジャンルの骨董にはまっているとします．その人は，結局「オレは何でこんなものにはまっているのだろうか?」と自問自答することになるはずです．これって，まさに研究テーマ，研究そのものの方向付けに直結するものだと思いませんか？つまり，何かに魅せられるのは，そこに不思議な無私の心が働いているんだと思うんですけど，それはプロの研究者のみならず，卒論を書く学生にもあてはまるわけで…話はかわりますが，プリゴジン（散逸構造の理論で1977年ノーベル化学賞を受賞，2003年ブリュッセルで死去.）は，彼に親しい人によると，縄文式土器にはまっていたらしいです．実際，彼のいたブリュッセルにはアフリカ系のプリミティブアートのギャラリーが多かったです．数年前ある国際会議のついでに見て回りましたが…何の話をしていたんでしたっけ？

**Q5．現在，興味をもって御研究されているテーマをお聞かせください．**

アドホック・センサネットのような自律分散系と非線形問題，物理のクロスオーバーする領域ですね．これは現在，中世ヨーロッパの「錬金術」のような状況だと思っています．錬金術が現代のサイエンスの基盤となっているのと同じく，この領域も次の時代では新しいサイエンスになるはずだと期待しています．それを見るためには，長生きしなくてはならないですね．100年生きれば，自分も「骨董品」と認定されるわけで…（笑）

**Q6．読者へのメッセージをどうぞ！**

骨董は，所有欲という欲からスタートするものですが，はまっていくうちに，欲を離れて無心に物を見るというトレーニングになってきます．その二律背反が面白く，悩ましいところなのかと思っています．見るだけならただですので，骨董屋，アンティークショップ，骨董市に足を運ばれてみてはいかがでしょう．また，読者の方にも骨董やアート好きの方がいらっしゃると思いますので，ぜひ本誌にて御紹介頂ければと思う次第です．

学生に骨董の魅力を説く田中さん（左）
田中「これで飲むと旨いだろ…」
学生「…そうですか？」